

1. 単元名 命を守る～災害に備え、わたしたちにできること～

2. 単元の目標

- 災害時に避難する際の留意点、日常的な備えなど、防災対策の知識について理解し、命（自分・家族・地域）を守るためのスキルを身につけることができる。（知識及び技能）
- 自分の経験や新聞記事、これまでに起きた災害のことなどをもとに課題を見だし、自分や家族が安全に避難できる方法を考えたり、高齢者の方が安心して暮らすことができるようにするための対策を考えたりしたことを隈府小校区の防災マップづくりを通して伝えることができる。（思考力・判断力・表現力）
- 隈府小校区内で暮らす人々が安心して暮らすことができるようにしたいという目的意識をもち、意欲的に調べ学習を行い、要配慮者である高齢者の方々と関わったりハザードマップを作ったりすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

3. 単元について

（1）教材観

本単元「命を守る～災害に備え、わたしたちにできること～」は、「災害から命を守ること」を探究課題に、学校区の災害に対する防災・減災を探究していく過程において、命を守るために必要な知識や技能を身に付け、主体的に地域の人々と関わり、より安心・安全な地域となるよう工夫、改善をし、実践しようとする態度を養うことをねらいとしている。市役所職員や警察官、消防士の方などを招き、防災のために行っていることや心がけていること、どんなところに被害が多いかなどを直接聞くことで課題に対しての意欲を高めることができる。また、地域の高齢者の方々にハザードマップを配付する活動を通して、地域の実態を把握したり、これからの活動に具体性をもたせたりすることができる。さらには、高齢者や警察官等とのコミュニケーションを通して、人とのつながりの心地よさや、関係を深めるコミュニケーションスキルの向上も図ることができ、将来の職業を考えるきっかけになることを期待する。また、全国で起こっている災害の被害者の7割が60歳以上の高齢者であることを新聞記事から取り上げる。このことを通して、災害に対する正しい知識を主体的に得ようとするとともに、高齢者のことを考えて高齢者の心に届くようなハザードマップを作製するなど相手意識をもって活動に取り組むことができるようにする。

（2）児童観

本学級の児童は、「自分で考えて行動する」ことを目標に主体的に課題を見出し、見通しをもって様々な方法を用いて活動している。あいさつを積極的に行ったり、困っている人に手を差し伸べたりするなど対人関係スキルが高い児童が多い。また、第4学年において福祉の学習をしている。社会福祉協議会の方の話の聞いたり、車いす体験をしたりしており、体の不自由な方の気持ちを考えたり、困っている人を助けたいと感じていると考える。さらに、これまで「水

俣に学ぶ」の学習を通して人と助け合ったり、自分たちの力で地域を変えたり、よりよい生活をしようとしたりすることを学んでいる。

一方で、相手が傷つく発言だと気づかずに言葉を発したり、自分のことだけを考えて行動したりしてしまうところがある。今回の学習を通して相手のことを思い、自分たちにできることはなにかを考え、集めた情報を使ってよりよい方法を見出してほしい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず自然災害について知っていることを出し合うという活動を行い、災害のことについて学習することの見通しをもつことができるようにする。そのあとに、災害の被害者が60歳以上の高齢者であることが分かるグラフを提示し、高齢者が「要配慮者」であることや菊池市の人口推移から高齢者の割合が増加傾向にあることに気付かせる。このことから、災害から自分や家族、地域の方の命を守るためにはどうしたらよいかという課題をもつことができるようにする。

次に、児童が話を聞いてみたいと思った消防士・警察官・市役所の方をゲストティーチャーとして招き、仕事内容や災害が起きた時に気を付けていること、災害の時にどんな被害が多いかについて学ぶ機会をつくる。いろんな方の話から地域の高齢者の方に目を向けて課題に取り組むことができればよいと考える。課題から高齢者の方が安心して避難できるようなハザードマップを作成したり、家族を守るためにどんな備えがあればよいかを家族と確認したりすることで自分や家族、地域の方の命を守るができるようにする。

ハザードマップを作成する際には、相手にとって見やすいものであるという視覚的な配慮を促すようにする。ハザードマップを作成する際には相手にとってわかりやすいものはどのようなものか、ということが分かればよいかなどコミュニケーションのきっかけとなるように工夫できるようにする。

さらに、これらの活動を通して、地域づくりに直接貢献できたということを振り返らせ、自分たちが地域をよりよい街へとするためにできることはないかを話し合うことを通して、これからの活動にもつなげていくようにする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

有限性…災害によって今まで培ってきたものや命が失われてしまう可能性があること。

相互性…災害が起きたときの被害を抑えるためには、地域の関係が大切であり、環境保全も防災につながっていること。

連携性…自分自身のことだけでなく、地域や環境のことを考え地域全体で支えていくことが大切であるということ。

責任制…自分が住んでいる地域について当事者意識をもって生活することで自分の命だけでなく地域や町のことを考え、協力して住みやすい町づくりをしようとする。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

◎未来像を予測して計画を立てる力

実際に災害が起きたときのことや人口推移グラフをもとにこれからの菊池市を予測しながらどんなことが今の自分にできるか考え、被害を抑えるためにはどうしたらよいか計画する。

◎コミュニケーションを行う力

減災のためにどんなことが自分たちにできるのかなど根拠を明らかにしたり、地域の方が災害時どんな不安なことや心配なことがあるかを聞いて考え話し合ったりする。

◎他者と協力する態度

友達や市役所、地域の方と協力し町を守っていかうとする態度

◎つながりを尊重する態度

地域の高齢者や消防士、警察官、市役所職員などいろんな人が協力し合って安全を守っていること、平和や安全が当たり前でないことを自覚し感謝することができる態度

・本学習で変容を促すESDの価値観

○世代間の公正

過去の災害から復興への方法を知り、今自分の身を守ることができるのは自分であるという当事者意識をもって活動に取り組み、これから生活していく中で自分に何ができるのか考える。

○自然環境や生態系保全を重視する

自然が災害を防ぐことを知り、自分や町を守るためにも環境保全に努めることが大切であることを考える。

○幸福感を大切にす

自分が誰かのためになっているという自己有用感をもつこと。

・達成が期待されるSDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 3 気候変動に具体的な対策を
- 1 5 陸の豊かさも守ろう

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①災害の時、避難する時の留意点や日常的な備えなど防災の知識について理解している。</p> <p>②調べたり、話を聞いたりして得た知識を用いて、図や表などを使って相手意識をもってまとめる技能を身につける。</p>	<p>①資料や自分の体験を基に課題を見だし、安心できるまちづくりのための方法を考えることができる。</p> <p>②課題に対しての情報を集め、整理してまとめ、発表することができる。</p>	<p>①校区内の人が安心して暮らせるようにしたいという目的意識をもち、意欲的に他者と関わろうとしている。</p> <p>②ハザードマップ作成を通して、自分にできることは何かを考えることができる。</p> <p>③学んだことを地域の方のためになるように発信しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全26時間）

学習計画	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 菊池市の人口推移グラフや新聞記事から課題と今後の活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨で学校が休みになったね。 ・菊池市の人口推移も高齢者が多いね。 ・災害の約7割が高齢者の被害なんだね。 	<p>○菊池市の人口推移グラフや新聞記事（災害の被害の7割以上が60歳以上の高齢者であること）を提示し、高齢者割合に注目させ、課題をもつことができるようにする。</p>	<p>イ① (思判表)</p>
<p>2 災害が起きたときの対策等について「自助・共助・公助」に分けて調べる</p> <p>「自助」…すぐに避難できるものを準備しておく必要があるね。</p> <p>「共助」…高齢者の方はどうして逃げ遅れるのかな。どうしたら高齢者の方も助けることができるのかな。</p> <p>「公助」…消防士や市役所の方はどんな仕事をしているのかな。</p> <p>消防士・警察官・市役所職員の話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちにできることはないかな。 ・一人暮らしの高齢者が心配だ。 <p>3 活動の振り返りをして、次の課題をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごせるために、ハザードマップをつくったらいいのではないかな。 	<p>○災害の基本的なことや災害が起きたときどういう人が携わっているのか等自分たちの課題に対して必要な情報を集めることができるようにする。</p> <p>○情報を集めながら、もっと調べたいことや自分たちにできることについて考えることができるようにする。</p> <p>○消防士や警察官、市役所職員の方の話を聞いて、防災マップ等を作成したいと思うことができるように、提案する。</p> <p>○活動の意義を再確認し、対人意識をもって活動に取り組むことができるようにする。</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
<p>4 防災マップを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊池市のハザードマップを見ながら自分の家の周りをまわってみよう。 ・どういう工夫をするとわかりやすいかな。 ・避難道具をすぐに見ることができるようにしてあればいいよね。 	<p>○どんな人に届けるのか考えながら防災マップを作成することができるようにし、もらった人のためになるように試行錯誤しながら作成する。</p> <p>○国語科や算数科、社会科の単元とも関連させて作成できるようにする。</p>	<p>ア② (知・技)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
<p>5 防災マップを配付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所においてもらえるか聞きに行こう。 ・自分の近所の人にも配って、高齢者の方も一緒に救助することができればいいよね。 ・もっとたくさんの人に配付するにはどうしたらいいかな。 <p>6 振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが地域のためになった実感がわいた気がするな。 ・家でも話してみたよ。 	<p>○自分たちの思いや希望も一緒に伝えることができるようにする。</p> <p>○高齢者だけでなく、いろんな人が見やすいような、手に取ってもらえるような工夫をするように促す。</p> <p>○家庭でも防災対策ができるように促す。</p> <p>○自分たちが地域の役に立ったと自己有用感をもつことができるようにする。</p>	<p>イ② (思判表)</p> <p>ウ③ (主体的)</p>

